



秋の火災合同訓練実施



宿南地区の皆様方には、平素より消防団活動に多大なご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。
11月13日(日)寄宮地区において火災があった場合を想定し八鹿方面隊火災合同訓練を行いました。
合同訓練では、地域の安全、安心を守るにはどうしたらよいか、火災現場でどうすれば的確な状況判断・指示が出せるか、どんな行動をすれば良いのか、火災から住民の皆さんを守る為には一層の訓練が必要だと考えさせられる貴重な訓練でした。

今後も区民の皆様方の安全・安心を守るため、消防団員はこれからも努力、精進を怠ることなく、活動技術にも更なる磨きをかけ、団員が一丸となって区民の皆様方の負託に応えてまいりますので、引き続き消防団活動へのご支援、ご協力をお願いいたします。(養父市消防団八鹿第9分団 分団長 桑原一憲)



年末大掃除実施

11月27日(日)ふれあい隊・花水木の会・喫茶ひまわりの皆さん36人でふれあい倶楽部内・外の掃除をしていただきました。窓ガラス・側溝・蛍光灯掃除等、普段できないところを手際よく掃除していただきました。これで新年を迎える準備ができました。

ありがとうございました。



宿南の魅力発見フォトコンテスト “投票受付中” 12月20日迄

第1回宿南の魅力発見フォトコンテストに多くご応募いただきありがとうございました。ただいま公開中です。

地区民全員に投票権があります。投票者にも抽選で10名様に豪華景品を贈呈いたします。ふるって投票に参加下さい。



<https://forms.gle/rJEC8MkuFh7qBbeA6>

「宿南こども園」作品展 開催

ふれあい倶楽部で宿南こども園の作品展を開催しました。こども達のお散歩コースのジオラマには青谿書院があり、そうあん君もいて郷土愛があふれた見事な作品でした。



身近で見られる植物 ⑱

ナンテン〈メギ科〉

暖地の山中に自生する常緑低木ですが、但馬では庭先に多く、今の時期赤い実が目立ちます。



ナンテンを漢字で書くと「南天」ですが、「難転」とも書き、難を転じることから縁起物としても使われます。赤い実や葉は、陰干しにして「南天実」として鎮咳薬に、葉は催吐薬等にも使用されます。「南天のど飴」で、皆さんも聞き馴染んでいると思います。

ナンテンを漢字で書くと「南天」ですが、「難転」とも書き、難を転じることから縁起物としても使われます。赤い実や葉は、陰干しにして「南天

実」として鎮咳薬に、葉は催吐薬等にも使用されます。

「南天のど飴」で、皆さんも聞き馴染んでいると思います。

「浅野の未来を考える会」来訪

11月29日(火)市川町の「浅野の未来を考える会」19人の視察がありました。浅野地区は40世帯位で高齢化率も高く小学生は4人だそうです。移住等を含めた地域の活性化計画を策定中とのことで、宿南地区の取り組みの説明を聞き、農業特区や耕作放棄地・後継者問題等の質問もあり活発な意見交換がなされました。続いて池田草庵先生の紙芝居ビデオを視聴後、青谿書院に移動しガイドの説明に興味深く聞いておられました。



12月18日(日)クリスマス会 火災消火訓練

お知らせ 12月20日(火)フォトコンテスト投票締め切り

12月26日(月)フォトコンテスト審査発表 1月末日まで展示(ホームページ・ふれあい倶楽部)

12月26日(月)~1月12日(木)喫茶ひまわり休業日

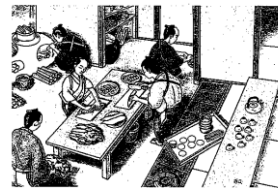
12月29日(木)~1月3日(火)宿南ふれあい倶楽部休館日

1月16日(月)19日(木)喫茶ひまわりイベント開催(別紙喫茶ひまわりからのご案内参照)



草庵先生紹介

日記 46



塾生は自分たちで当番を決め、食事の用意をしていた。

宮崎和夫さん作

青谿書院では、塾生が増えていった。「寄宿舎に入っている者が多いときは60人を越した」(「但馬聖人」豊田小八郎著から)こともあったようだ。これらの塾生はどのような生活をしていただろうか。

池田草庵の日記には、塾生の日常の生活の様子はあまり書かれていない。その辺りのことは、青谿書院で学んだ人たちから聞いた話がまとめられている前述の「但馬聖人」でうかがい知ることができる。草庵の日記からは少し離れるが、同書からの引用で紹介する。

寮生の食事 「生活は極めて質素であった。食事は1年を通じて朝はかゆにたくあん3、4切れ、時としてはごま塩が添えられることがあった。昼はごはんに干し大根入りのみそ汁。夕食は茶漬け飯に漬物あるのみ。ただ毎月の三慶日の昼食には塩魚乾魚が出ることもあった」

毎日の食事の用意 「炊事係がまず献立を考え、指導の立場の人に承認してもらう。それから、水くみ、米をとぎ、薪を準備し、野菜を買うなどそれぞれの仕事をする。調理が終われば、まず先生に試食してもらい、それからみんなで食事となる」

仕事の分担 「水くみ飯炊きなどすべて生徒の当番が割りあてられ、順番にやっていた。13~14歳の若い塾生は主に掃除、時には豆腐を買いに行くことも。15~16歳の者は炊事をやり、20歳前後の者は指導の立場だった。金銭会計のことは、塾生の中から委任されていた」

食費について 「食費は毎日、米5合と薪炭魚菜料が多少必要だった。これらは米で納めても、お金で納めてもよかった。会計係が月末に過不足を決算した」

寮生たちは質素な生活の中で、かなり自治的な活動をしながら日々を過ごしていたようだ。

池田草庵先生に学ぶ会